

# 柔道整復師国家試験科目，リハビリテーション医学における出題傾向

末吉 祐介，松本 揚，大澤 裕行，野田 哲由  
田村 哲也，岡村 知明，田辺 達磨，角田 佳貴，長谷川 龍成  
了徳寺大学・健康科学部整復・医療トレーナー学科

## 要旨

本研究の目的は柔道整復師国家試験科目であるリハビリテーション医学の出題傾向を分類することである。対象は第1回～第25回の柔道整復師国家試験において出題されたりハビリテーション医学の問題275問であり，対象とした275問について，柔道整復師国家試験出題基準に基づき分類した。最も出題頻度が高かった項目は評価法で，次いで理学療法，義肢・装具の順に出題数が多かった。過去，国家試験で出題された問題を分類，分析することは国家試験対策を考える上で重要である。今回の分類で出題数の多かった項目を学習することで学習効率の向上が期待できると考えられた。

キーワード：柔道整復師国家試験，リハビリテーション医学，国家試験対策

## Question tendency analysis of the national examinations for rehabilitation for Judo Therapy Practitioners.

Yusuke Sueyoshi, Yo Matsumoto, Osawa Hiroyuki, Tetsuyoshi Noda,  
Tetsuya Tamura, Tomoaki Okamura, Tatsuma Tanabe, Yoshiki Tsunoda, Tatsunari Hasegawa  
Department of Judothrapy and Sports Medicine, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University

## Abstract

The purpose of this study was to analyze question tendency in the National Examinations for rehabilitation for Judo Therapy Practitioners. We analyzed the 275 questions of the 1th-25th national examinations for a Judo Therapist. 275 questions were classified based on the standard national examinations. The result revealed that the most frequent questions were the assessment, and next frequent questions were the Physical Therapy and prosthesis. We can expect improvement of the learning efficiency by learning the items which were frequently asked with this classification.

Keywords: national examination for judo therapist, rehabilitation, countermeasure of the national examination

## I. 背景

柔道整復師養成施設において，国家試験合格率は重要である。平成28年度の就業柔道整復師は68,120人と前回（平成26年度）に比べて4,247人（6.6%）増加している<sup>1)</sup>。柔道整復師の数はここ12年間で約1.9倍に増加しており，背景には養成施設の増加が関係している。平成10年度14校であった養成施設は平成27年度には109校と実に8倍近く増えており，柔道整復師の数は今後も増え続けることが予想される。養成施設の増加はそのまま定員を確保する競争が増すことを意味する。質の良い学生の確保は養成施設にとって重

要な課題であり、その対策が必要である。また、学生目線に立てば、養成施設の国家試験合格率は養成施設を選ぶ基準になるであろう。一方で、柔道整復師国家試験の合格率は近年低下しており、今年行われた第25回柔道整復師国家試験では全体の合格率が63.5%と過去最低となっている。松本ら<sup>2)</sup>は養成施設で行われている国家試験対策が国家試験合格率に効果をあげていないと考察しており、国家試験対策を見直す必要があると考えられる。

ここで柔道整復師国家試験の概要を説明する。柔道整復師国家試験（以下、国家試験）では、30問の必修問題と200問の一般問題の計230問で構成され、必修問題は8割、一般問題は6割以上の得点で合格とされる。国家試験問題は柔道整復師国家試験出題基準<sup>3)</sup>に基づいて出題されており、試験科目は解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学、柔道整復理論、関係法規の11科目で構成される。

国家試験科目のひとつであるリハビリテーション医学はリハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学、リハビリテーション医学の基礎医学、リハビリテーション医学の評価と診断、リハビリテーションの治療、リハビリテーション医学と関連職種、リハビリテーションの実際、リハビリテーションと福祉で構成されている。国家試験問題230問のうち12問をリハビリテーション医学が占めている。30問の必修問題のうち1問が、200問の一般問題では11問をリハビリテーション医学が構成しており、合計12問が出題されている。

過去、国家試験で出題された問題を分類、分析することは国家試験対策を考える上で重要である。出題頻度の多い項目を重点的に学習することで、国家試験対策をより効率的に行うことができ、国家試験合格率向上に役立つと考えられる。国家試験問題の出題傾向に関する報告では、柔道整復理論の出題傾向を分類した報告が4件<sup>2) 4) 5) 6)</sup>、解剖学の出題傾向を分類した報告が1件<sup>7)</sup>、生理学の出題傾向を分類した報告が1件<sup>8)</sup>、一般臨床医学の出題傾向を分類した報告が1件ある<sup>9)</sup>。国家試験対策を考える上で、出題傾向を知ることが重要であることから、今回、我々は第1回～第25回の国家試験科目であるリハビリテーション医学の出題傾向を分類した。

## II. 目的

国家試験科目であるリハビリテーション医学の出題傾向を分類することである。また、それによる国家試験対策の教育効果向上を目的とする。

## III. 対象・方法

第1回～第25回の国家試験において出題されたリハビリテーション医学の問題275問（一般問題263問、必修問題12問）を対象とした。対象とした275問について、柔道整復師国家試験出題基準<sup>3)</sup>に基づき分類した。出題基準によって分類できない問題は分類不能として扱った。尚、必修問題については必修問題が導入された第14回～第25回までを分類した。

## IV. 結果

一般問題263問のうち、最も出題頻度が高かった項目は評価法63問（24%）で、次いで理学療法41問（16%）、義肢・装具27問（10%）の順に出題数が多かった。（図1）

必修問題12問のうち、最も出題頻度が高かった項目は評価法5問（42%）で、次いで理学療法4問（33%）、

義肢・装具2問（17%），脳卒中1問（8%）であった。（図2）

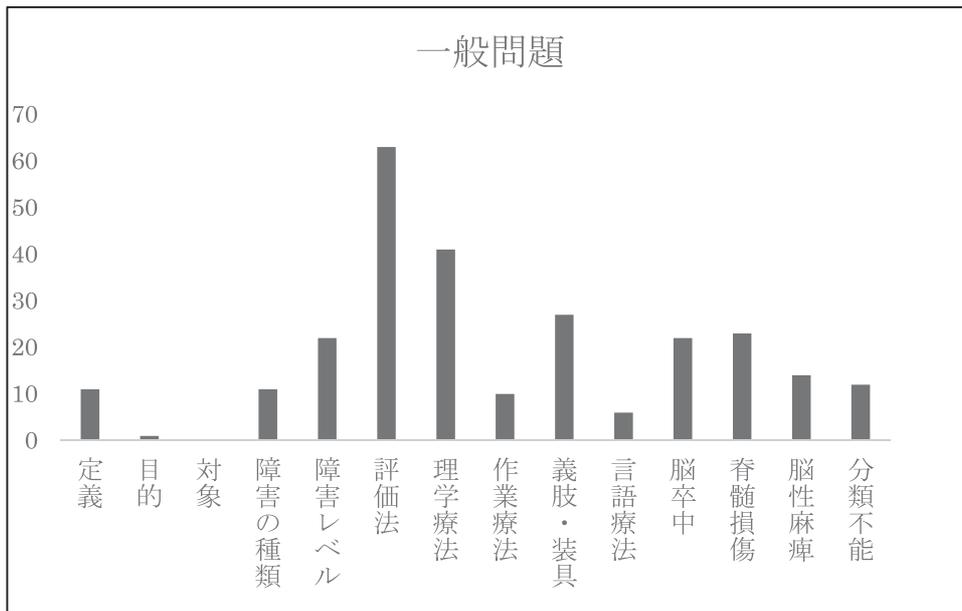


図1 リハビリテーション医学一般問題の出題数

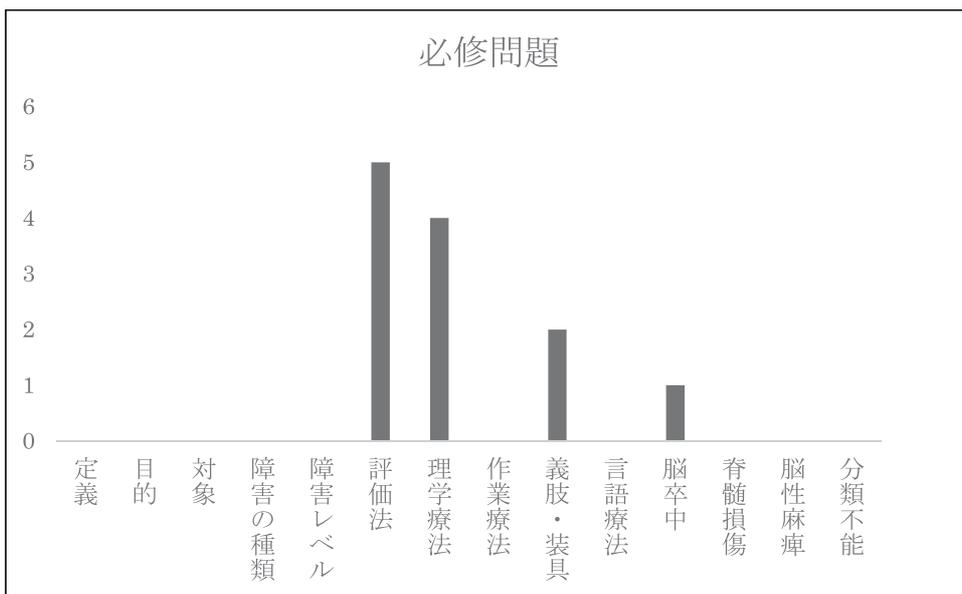


図2 リハビリテーション医学必修問題の出題数

## V. 考察

一般問題，必修問題ともに最も出題頻度の高い項目は評価法であり，次いで理学療法，義肢・装具であった。リハビリテーションを行う上で，最も重要と考えられるのは評価であり，これに基づいてリハビリテーション計画が作成され，目標に向かって治療プログラムが実施される。そのため国家試験での出題頻度が高いのではないかと考えられる。また，理学療法はリハビリテーションにおいて重要な治療法の1つであり，様々な治療方法が存在する。運動療法はもちろん，物理療法など柔道整復師に求められる必須の知識である。義肢・装具についてもスプリントの作成や松葉杖，車椅子といった移動補助具の知識も必要とされる

ことから出題頻度が高かったと考えられる。

今回、柔道整復師国家試験出題基準に基づいて分類を行ったが、分類できない問題が散見した。これは、全国柔道整復学校協会監修リハビリテーション医学には記載されているが、出題基準に照らし合わせると分類できない問題が存在するためである。このことから出題基準の範囲のみ学習した場合、解答できない問題が存在することを示唆している。国家試験対策としてリハビリテーション医学を学習する際は、出題基準を理解することは必要であるが、教科書に沿った学習を心がけることが重要であると考えられる。

高齢化を背景に柔道整復師の需要は益々、増大することが考えられる。就業柔道整復師の数は増え続けており各地の地域医療に貢献している。しかし、一方で柔道整復師の質の低下も懸念されており、残念ながら不正請求により摘発される接骨院も存在する。平成30年度より柔道整復師養成施設のカリキュラムが改訂される。改訂により授業単位と実習単位が増加することで、質の高い柔道整復師を養成する狙いがある。国家試験合格率の低下、カリキュラム改訂に伴い、養成施設としてはより質の高い教育と高い国家試験合格率が求められていくことが予想される。

今回、国家試験科目であるリハビリテーション医学の出題傾向を分類した。最も出題頻度が高い項目は評価法であり、次いで理学療法、義肢・装具の出題頻度が多かった。このことから、リハビリテーション医学を学習するにあたっては評価法、理学療法、義肢・装具の範囲を重点的に学習することで学習効率の向上が期待できると考えられた。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省：平成28年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況，厚生労働省ホームページ，<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/16/dl/kekka3.pdf>（2017.11.28 23:00アクセス）
- 2) 松本揚，岡田隆，岡村知明ほか（2015）柔道整復師国家試験必修問題に出題された柔道整復理論の出題傾向．了徳寺大学研究紀要．9，97-101.
- 3) 公益社団法人柔道整復研修試験財団（2009）柔道整復師国家試験出題基準，医歯薬出版株式会社，東京．39-48.
- 4) 田辺達磨，松本揚，大澤裕行（2015）柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向-柔道整復理論に着目して-．了徳寺大学研究紀要．9，79-83.
- 5) 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治ほか（2016）第13回～第23回柔道整復師国家試験における必修問題の出題分析—柔道整復理論154問の分析より—．日本体育大学紀要．45，113-117.
- 6) 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治ほか（2016）第18回～第24回柔道整復師国家試験における一般問題の出題分析—柔道整復理論245問の分析より—．日本体育大学紀要．46，39-44.
- 7) 角田佳貴，田村哲也（2017）柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向—解剖学に着目して—．了徳寺大学研究紀要．11，63-67.
- 8) 長濱節子（2016）柔道整復師国家試験問題生理学分野の傾向分析（2）—はり師・きゅう師，あん摩マッサージ指圧師，理学療法士・作業療法士の各国家試験問題との比較傾向分析—．帝京平成大学紀要．27，25-37.
- 9) 末吉祐介，松本陽，大澤裕行ほか（2017）柔道整復師国家試験科目一般臨床医学における出題傾向．了徳寺大学研究紀要．11，47-52.